

## 学校再編についての住民説明会

日 時：平成28年 7月30日(土) 午後7時00分～8時18分

会 場：町営練牛住宅集会所

出席者：住 民 12人(男7人、女5人)

教育委員会 委員長 後 藤 眞 琴

委員 留 守 広 行

委員 千 葉 菜穂美

教育長 佐々木 賢 治

教育次長兼教育総務課長 須 田 政 好

教育総務課課長補佐 早 坂 幸 喜(司会・進行)

《課長補佐(早坂)》

皆さん、お晩でございます。学校再編についての住民説明会ということでご案内をしておりましたが、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から、説明会ということになっていますが、決まったことを説明するというものではありません。教育委員会が今考えていることについて御説明をして皆さんの意見をお伺いしたいという会と捉えていただきたいと思いますので、よろしくお願います。それでは、開会に当たりまして、美里町教育委員会後藤委員長から挨拶を申し上げます。

《教育委員長(後藤)》

皆さん、こんばんは。今日はお忙しい中、また、梅雨が明けてこのような暑さの中お集まりくださいませありがとうございます。メモを見てお話しすることをお許してください。小中学校の再編につきましては以前から教育委員会の懸案事項でありました。教育委員会では小中学校の再編につきまして、平成26年4月の定例会から継続協議にして協議を重ねてまいりました。そして、平成28年6月の定例会におきまして小中学校の再編についてまとめた美里町学校再編ビジョンを策定いたしました。今日は最初に教育委員会が現在考えている美里町学校再編ビジョンに沿った具体的な取組について簡潔にご説明申し上げ、次にそれに対する皆さんの率直な御意見、お考えをお聞きし、そして皆さんと意見を交換しながら将来の美里町の学校の在り方について考えていく一歩としたいと考えております。お配りしました学校再編住民説明会の開催についてという資料にもありますように、皆さんに今日ご説明申し上げる教育委員会が現在考えている再編ビジョンに沿った具体的な取り組みは、これからできる限り皆さんの御意見、お考えをお聞きし、皆さんと意見を交換しながら、共に将来の美里町の学校の姿のよりよいものを考え出して最終決定していくためのたたき台でございます。詳細につきましては教育次長から申し上げます。皆さんの率直な御意見、お考えをよろしく申し上げます。

《課長補佐(早坂)》

説明に入る前に、誰が説明をして、皆様からの質問に誰が答えているのかがわからないというところがないよう出席してあります教育委員及び教育総務課の職員の紹介をさせていただきます。自己紹介で紹介します。

(出席者6人が自己紹介をする。)

《課長補佐(早坂)》

それでは、学校再編についての説明をさせていただきます。説明の教育次長兼教育総務課長の須田から申し上げます。

《教育次長(須田)》

それでは、御説明申し上げます。資料は3点であります。次第とそれから何枚か綴じています学校再編についての住民説明会と書いてあるこちらの資料、それから町内の児童生徒の一覧表の3点であります。次第につきましてはこの通りであります、こちらの綴じた資料で御説明を申し上げます。こちらの資料につきましては、7月1日発行の広報みさとの確か4ページだったと思いますがそこに載ったものです。それを皆さんに周知するために作成しました。この内容は、下段にもありますようにこの3日間、各会場でこの時間で行いますので、皆さんお集まりくださいというお知らせが1つです。ここにありますように練牛地区が最終の8か所目の会場であります。先週の土曜日と日曜日、そして今日の午前、午後と行ってまいりました。ここ8か所目ということで開催させていただきます。それからもう

1点はですね、教育委員会が現在考えております学校再編ビジョンの骨子の部分、これを抜粋して内容を掲載しています。あくまでもこれはたたき台でありまして、現時点での教育委員会の考えであります。それを中学校の再編と小学校の再編の中身をここに書かせていただきまして、なるべく多くの皆さんに知っていただきたい、そのようなねらいであります。この2つの狙いがありましてこのチラシを広報に載せ、更には、幼稚園の園児、それから小学校の児童、中学校の生徒に夏休みの前に家庭に持ち帰りで配布しております。それではこれをめくっていただきますと、教育委員会からの皆さまへの挨拶であります、これは先ほど委員長が述べましたものを簡単に文書でまとめたものであります。これは省略します。3枚目からページが振られていまして、1ページから6ページまでであります。こちらに沿って説明を申し上げます。次第はこの通りであります、次第の中の3の説明というのがあります。この中に①から⑥まで、これからお話しする内容の項目といいますか、ポイント的なものがここに①から⑥までまとめています。①と②につきましては中学校の再編について教育委員会の考え方とどのように再編していくかについての現在の考え方です。③と④については小学校の再編について書いています。そして⑤については今後の事業費のこと、そして⑥については今後の取組について書いています。これらについて順次ご説明をさせていただきます。ページをめくっていただきまして2ページ目、3ページ目であります。ここに中学校の再編の理由が書いてあります。一つ目、二つ目、これの順番は特に意味はありません。今、教育委員会で動き出した、再編を必要として考えているものは、まずは生徒数が減ってきているということ、それから具体的には小牛田中学校と不動堂中学校ですね、この

資料の最後に学校の概況を載せていますが、既に51年、46年が経過しております。これだけ築後年数が経過していますので、施設は老朽化と言いますか古くなっています。これら古くなっている施設を修繕しながら生徒の学校生活を確保はしていますが、これがいつまでも部分的な修繕、部分的な修繕だけを繰り返してはいけないと、何らかの形で抜本的な大改修とか、あるいは新しい校舎を建てるといったことを今後町として考えていかなければなりません。しかし、生徒数がこれから増えることはなくとも減っていく現状でありますので、また、もう一つは町の財政の条件もありますので、小牛田中学校と不動堂中学校をそれぞれ新築していくというのはかなり厳しいものがあります。であるならば、将来の学校の編制を今の学校の編制ではなくて、どのように編制していくべきかを考えていこうとしたのが、今回の教育委員会の最初のスタートであります。それと併せまして、南郷中学校については校舎が36年とそれほど古くはなっていませんが、生徒の数がですね、1年生から3年生まで全部で現在のところ137人です。この137人が来年の春になると、3年生が59人卒業して、そして新しく今の南郷小学校の6年生の39人が入学してきます。ここでまた20人が減ります。ですと、110人、120人くらいになってしまいます。将来的には、今の小学生の数から推計すると100人になり、そして100人以下になるのではないかと考えています。このような形で小牛田中学校と不動堂中学校に比べれば校舎はまだ新しいのですが、生徒数の減少がかなり大きくなっているという問題があります。ですと、南郷中学校のまま生徒数の小規模の学校として存続させた方が良いのか、あるいは、小牛田中学校と不動堂中学校の再編と一緒にやる方がよいのか、その辺が一つのポイント、議論になるとこかと思えます。現段階では、教育委員会としましては1校体制を目指していこうという考えです。時期的にはかなり厳しくなりますが33年4月を一つの目標に今後進めていけないだろうか、という考えであります。これが中学校2ページ、3ページ、①、②の内容です。③と④の4ページ、5ページですが、中学校の再編をこれから考えていく上でですね、小学校の再編をまったく抜きにしては考えられないだろうと、小学校につきましても一部校舎が古くなっていますし、これからも古くなっていきます。それから児童数の減少も今後想定されますので、こうした小学校を踏まえながら、小学校の将来ビジョンと一緒に中学校も考えていきたいと思いますというのが、ここまで進めてきた協議の経過であります。それで、小学校については、遠い将来になるか近い将来になるかは別としても、将来的には1校体制が望ましいのではないかと教育委員会では考えています。それで今の6校をすぐに1校というものではなくて、現在の中学校区単位でそれぞれ1校にして、それを経た上で1校にと考えています。南郷小学校区については中学校区と同じ学区ですので、南郷についてはこのままですが、小牛田地区につきましても、小牛田中学校区と不動堂中学校区で小学校区をそれぞれ一つにと考えています。これまでの小学校区における地域コミュニティと言いますか、地域づくりと言いますか、そういったものが長い期間にわたって形成されてきていますので、これをいっきに町一つの学校区にもっていくのではなくて、現在の中学校区単位で集約して3校体制というのが好ましいのではないかと思います。3校体制にすることによっ

て、幼稚園から小学校へと同じ地域の対象ができる、こごた幼稚園から小牛田地域の小学校に、それからふどうどう幼稚園から不動堂地区の小学校へという形で移行ができるのではないかと考えています。こうした3校体制を経た後にですね、はたして次は町内1校体制で良いのかを、その段階でもう一度検討しなおして、そして必要であれば1校体制に移行すると、それは将来的な話になってきますが、しかし、現段階では1校体制に最終的にはなるのではないかと、時期の明確化はできませんが将来ビジョンとしてはそのような考え方です。それで、小学校のほうについては、中学校もそうですが、それぞれ地域、地域の事情がありますので、小牛田中学校区、不動堂中学校区、それぞれ時期が早まったり遅くなったりすることはあると思います。あるいは考え方としては、片方は中学校区で1校になって、片方では1校にならずに町内1校になるときにそのまま1校になるとか、それぞれ地域によっては地域の実情もありますので、学校の老朽化もまた違います、また、児童数の状況も違いますので、それぞれの地域、地域に応じた考え方で進めていきたいと思っています。これが小学校についての教育委員会の考え方であります。时期的には、これから5年くらいかけて検討し、取組についてはそれ以降、平成33年度以降と考えています。次に、6ページ目のところに⑤の費用について、そして⑥の今後の取組について書いています。費用につきましてはここにもありますように、今後再編する場合にですね、今ある施設、学校の校舎を使うのか、あるいは新しく建てるのかによってかなり違ってきます。まずもって、今ある学校校舎が長寿命化を図るための大規模改修の工事ができる校舎なのかということ調査、判定することが必要だと思っています。そして、仮に大規模改修をして活用できるとなればどれくらいの費用がかかってくるのか、長寿命化を図るとなればこれから30年以上を考えています。それが可能なかどうか。もし、可能であればその事業費はいくらなのか、それをこれから専門の業者をお願いをして調査をする考えです。それらを含めてさらに検討が必要になってくると思います。ですので、どのような再編の内容、組合せ、編制、それからどのようにして編成後の校舎を整備するのか、そのような手法的なものも、これから合わせて検討していくこととなります。それから今後の取組はここに書いていますが、かなりタイトな日程で、ほかの会場でも言われていますが、来年の3月までこの内容を決定すると書いています。これはですね、今回8か所の皆さんの御意見をお聴きすれば、3月までにまとめることはかなり至難な業であると思っています。しかし、この3月までに、まとめられるものはまとめるよう時期を書いています。もしこれが3月までにまとまらなければ、また時期を1年、あるいは半年と時間を延ばしながらも皆さんの意見を聴きながら、皆さんの意見をなるべく反映できるような形で将来の学校の姿を描いていきたいという考えであります。1月に第2回目の説明会と書いてはございますが、ある会場では、もう1回来て説明してそれで終わりか、そんな無茶な話はないだろうと、当然のことでありまして、教育委員会としてもその後いろいろと協議をしながら、今後もう少し小さな地域の範囲で地域に出向いてお話を聴くとか、あるいは、9月に予定をしたいと考えていますが、各学校のPTAそれから保護者の皆さんにお集まりいただいて、9つの小中学校の単位で学校の教室を借りながら、

夜間にでも保護者、PTAの皆さんとの話し合いの場を9月に設けたいと思っています。まとまりのないお話になりましたが、これから、どんどんと皆さんのお話をお聴きしていかなければいけないと重々思っております。その上で、今日ご説明申し上げましたのは教育委員会の現段階での考え方でありますので、皆さんの意見をさらに聴きながらですね、描いていきたいと、そのように考えています。それから、一番後ろにつけています2枚の資料は、これは、ここに書かれている通り、一枚目は中学校の現在の生徒数とクラスの数、真ん中にはですね、再編する目標であります33年度の時の推計の生徒数を書いています。そしてその下には、それを30人未満学級でもっていった場合にどのようになるかを書いています。線を引いた下の表については各中学校の各部活動の部員数を書いています。その裏につきましては、総合計画が4月から新しく作られましたが、そちらの方で行った人口推計から拾って児童生徒数のそれぞれについて小牛田地域、南郷地域の推計をデータ上の推計から引っぱっています。ここの総合計画で行っている人口推計は、これから町の定住化を図り、少子化対策をいろいろな面で図って行って目標人口というものを設定しています。その目標人口に沿った推計でありますので、この目標を達成した場合の人口推計でありまして、こうしたものを使って児童生徒数を推計しています。それから最後には、先ほどお話ししました学校施設の老朽化の現状ということで、小学校6校と中学校3校の建設年と建設してから何年経っているかと、それから敷地面積、延べ床面積、そして右側にCRとあるのはクラスルームで普通教室の数であります。これらの資料をこれからの学校再編を考える上で、資料の一つとして参考にしていただければと考えています。以上であります。

《課長補佐（早坂）》

只今、現時点での教育委員会での考えということで、決して決定事項ではありませんが案を説明させていただきました。これに対して質問、御意見等を頂戴したいと思います、いかがでしょうか。

《男性》

今回のこの場というのは、中学校3校を1校にまとめてどこにもって、小学校も何年か後にまとめるとかまとめないとかいう意見を聴きたいということですよ。それにしてもメリットとデメリットとか、統合することによってこういうメリットがあります、こういうデメリットがありますというのがわからない状態で意見を出してくださいというのは、自分はそんな専門家でないので自分の思いつく範囲でのメリットとデメリットしか出せない状態で決めるということは不安な点もあります。今すぐに意見を出してくださいと言われても出せないです。

《教育長（佐々木）》

まったくそのとおりだと思います。今日は大まかなということで御説明をしましたが、これはほかの地域でも同じような御質問が出されました。それでまず、中学校のお話をさせていただきますが、現在、児童・生徒数の推計という表がありますが、3校のうち一学年が三学級になっているのは、小牛田中学校では1年と3年、それから不動堂中学校で1年しかあり

ません。そのほかは全部、2学級、あるいは1学級です。県教育委員会や私たちの目指す学級数は一学年三学級が適正規模と考え、もちろん四学級でも良いのですが、最低三学級くらいあれば良いだろうという目標であります。統合することによって、30人未満学級だと二一学級ですが、そこに行く前に一学年三学級以上になりますと、例えば教科の担当教員、五教科の複数配置が可能になってきます。三学級以上ですと全校で九学級になると複数配置が可能になります。いわゆる、教員の数が増えれば教員同士でいろいろ研究を重ね、情報交換を行わないながら授業力、教科指導力を高めるなど教員の質の向上に結びつき、それが生徒の学力向上に結び付きます。今は少ないからぜんぜん学力向上に結びつかないのではないかという意味ではなくて、やはり多いほうがより良い効果的な指導に結びつきます。これが1点目であります。それから担当教員が増えれば、生徒指導上、生徒を見る視点というのがいろいろな多数の教員から子ども達の状況を捉えることができます。生徒の生活状態、心の状態、もちろん学習状況等、より詳細に把握でき、生徒指導上いじめの問題などいろいろありますがそういったものの早期発見にも結びつきます。また、いじめの防止等にも結びつくのではないかと思います。もちろん、学力向上にも結びつきます。それから、五教科以外の技能教科、美術、体育、家庭、音楽とありますが（全校で）七学級程度ですとなかなかその五教科の専門の先生を配置することが難しい状況です。臨時とか非常勤で県のほうにお願いをしてやっていますが、学級数が増えることによってバランスのとれた教員配置ができるようになります。そういったことなどによって免許外による指導の解消に結びつくだろうというのが2点目です。それから3点目につきましては、生徒の活動を見た場合、中学校においては特に部活動のウエイトが大変に大きいのが実態であります。そのの一覧表にもありますが、いわゆる部活動が設置できない種目がけっこうあります。生徒数が増えれば要望の強いいろいろな種類の形態を設定できるのではないかと思います。現在は、男子バレーボール部などは不動堂中学校と小牛田中学校の合同によるチームで、中体連等々でがんばっている状況であります。そのほかに、学校によってはサッカーをやりたい生徒が、不中にはサッカー部がないのですが何人か希望者がいないわけではありません。生徒数が増えていけばそのようなことも可能になるのではないかと思います。それが3点目です。4点目ですが、美里町が誕生して今11年目を迎えます。これから学校再編を視野に入れて取り組んでいかなければならない時期にきていますが、町内に一つの中学校という考え方、生徒にとってみんな友達であるという一体感のようなものも必要になってくるのではないかと、一回でできなくとの将来的な展望としてそのような話合いを教育委員会で行って来ました。具体的なものを資料として提示すればよかったですのですが、また次の段階でいろいろと必要になってくるかと思えます。よろしくお願ひします。

《教育次長（須田）》

今、教育長からも申し上げたように、小規模校の問題を解消できるということ、部活動にしても教員の配置にしてもそういうメリットがあると思えます。あともう一つは、学校施設の充実です。たくさんある小学校を充実させることも大切です。3つの中学校を充実させるこ

とも大切です。しかし、学校を集約することによって施設の充実がしやすくなるということ言葉が悪いのですが、例えば1億円を2校にかけるよりも1校にかけたほうが施設の充実度は上がります。財政上の効率面で説明して申し訳ありませんが、余計に施設がたくさん抱えるよりは、数を少なくした方が財政の投資的にはかなり効果的になる、事務屋的な発想ですが私は思います。しかし、町には財政条件がありますのでそうしたメリットは確かにあります。デメリットは、大人数になること、広範囲になることによるデメリットが考えられます。人数が多くなればそれなりに規模が大きくなって学校ではそれなりの問題が出るのではないかと、それについては先ほど教育長が言った30人未満学級にするとか、あるいはソフト面での教員の配置をしっかりと手厚くして、大きくなったらそれなりの手立てをして、教育は人が行うものですから人の配置を手厚くすることによって解消されると思います。それから、広範囲になったことに通学の問題が新たに発生してくると思います。これらについても、物理的に自転車、徒歩では不可能な距離になりますので、当然にスクールバスの手立て、そちらの方をしっかりとやっていくことです。これらについてはバスを購入して運行するか、教員を増やすことなどで解消できます。しかし、一番の問題として出ているものは、今日の午前、午後の会場でも出たのですが、それぞれ学校が無くなったら地域が廃れるという言葉は適切ではありませんが、今後の地域づくりが変わってくるであろうと、学校のある地域とない地域とでは将来の地域づくりの考え方が変わってきます。これらの解消にはいくらお金をかけてもできるものではなく、大きな問題になってくると思います。デメリットとしては学校の規模が大きくなることによるデメリット、地域に学校がなくなることによるデメリットが考えられます。

《男性》

私個人的には、この場でなかなか名案は浮かばないのですが、さっき課長が言ったようにですね、地域の中から医療と教育の機関がなくなるというのは決して大げさではなくて、やはり地域の疲弊と衰退に間違いなくつながっていくと、その意味で再編の話は非常に残念に思っているところです。例えばですが、経費、人件費等の節減の問題もあるのですが、分校として残す、従来型のやり方でやるよりは経費はかなり縮小ができるのではないかと思います。校長先生、教頭先生はじめ兼務でいいわけですからね。それから生徒数の削減についてはすごく悲観的で、もっと若者を増やして、この表を見ると2040年から横ばいなし、ちょっと微増という予想がされています。そうした意味からしても分校で残していただければという思いがあります。もうひとつ重要なことは有事の際の避難場所として学校は最も理想的で望ましい構造をしています。トイレをはじめ個室が分散されていることなどの点から避難所としての役割を十分に発揮できます。特に南郷地区においては3階建て以上の建物がありません。その意味からしても是非とも残して欲しいというお願いをしたいと思います。やはり我われもそうですけれども役場の方も人口を増やすための施策をもう少し検討していただきたいという思いは強いです。さっき課長がおっしゃったように、通学の手段についても小島から小牛田方面に通うとなると、単純に授業を基準に考えた場合

はそう難しい問題ではないかもしれませんが、部活等を含めて考えた場合には、やはり安全等を含めて事は重大かなと、頭の中をよぎりました。是非とも、この辺前向きにお願いできないでしょうか。

《課長補佐（早坂）》

只今のは、学校がなくなることによって地域が疲弊、衰退が進むということで、分校としてでも残す方向で検討していただきたいという要望、意見ということで承ります。そのほか、御意見、御質問ありませんか。

《男性》

中学校の時って部活動がメイン、学童もそうですが部活動で心身の発達とかが出てくると思います。小牛田と南郷が一緒になった時はかなり広いですね、先ほど話されたできない部活動が出てきて、ただ、できた場合に種目によっては例えば野球、バレー、いろいろな部活によっては終わる時間が違います。そうした場合の帰宅のバスなどのルートとかそのようなものを考えていますか。

《教育長（佐々木）》

基本的には学校では下校時間を決めているようです。そのあとにスポ少扱いなどで差はありますが。

《男性》

それは実状ではないです。5時に終わりたいとか、6時に終わりたいとか。

《教育長（佐々木）》

その辺については教育委員会でも話し合っています。隣の町を参考にしています。次長の方から具体的にそこを。

《教育次長（須田）》

中学校を再編した市町村の状況を見ますと、朝は必ず一便です。始業時間が一緒なので朝は一便です。ただ、朝一便ということは逆にバスの車両を多く使います。涌谷町は70人の箕岳中学校の生徒を涌谷中学校に送るのに5台使っています。ですので、うちの方は相当使うと思います。夕方は、便数が分かれるので車両の数は減っていくと思います。便数は南三陸町だけが一便で、涌谷町を含めほかの町では帰りは二便です。部活動をしないで帰る生徒用と部活動をして帰る生徒用にと、教育長がお話ししましたように、各学校で部活、冬は6時までとか夏は6時半までとか決まっているはずですが。部活動が終了し片づける時間を含めて出発するという第2便が部活をする生徒用で出しているようです。ただし、それ以上に遅くなる場合、引き続きスポ少の練習に行った場合などは各家庭で対応していただくしかないと思います。第3便までとなると難しいと思います。

《男性》

ですので、私も残していただきたいと思います。

《課長補佐（早坂）》

はい、ほかにございませんか。



《女性》

中学校を一つに建てる場合の場所は、町ではどのようにお考えですか。

《教育次長（須田）》

場所についてはみなさん、いろいろな思いはあるでしょうが教育委員会の中では話し合いはしていません。ただし、南郷中学校の施設は36年経過しています、今皆さんから頂いたご意見のように南郷中学校を残した場合ですね、20年経つと56年が経過してしまいます。ですので、その時の生徒数等を考えた場合、将来的にという無責任な表現になりますが、遠い先では必ず1校になるのであれば、不動堂地区、小牛田地区の再編についてはそれを見込んだ場所でないといけないと思います。南郷中学校と一緒にする時に、また新たに場所を設けて新たに建てるということにはできませんので、それを見込んだ形で、新しい中学校を整備する場合には、ということで教育委員会でも考えています。しかし、ここでどこかということについては検討していませんし、しかし、皆さんにはそれぞれの思いがあると思います。その思いを持った中で、統合した方が良いのか、残した方がよいのかをお聞かせいただければと思います。南郷地区にとっては、児童生徒数が減っているという小規模の問題は抱えていても、施設面についてはまだまだしっかりとしています。体育館も武道場も新しいですし、プールも立派なものがありますから、校舎も36年ですし、ハードの面では差し迫った問題はないと思います。ただ、子どもの数が減ってきているので小規模の学校としてこのままやっていくか、標準的といいますかもう少し大きい規模でやっていくかのことだと思います。その方法として先ほど出ました分校方式というのも、今日の午前中の会場でもその話がでたのですが、私の個人の意見ですが、分校というものではなくて、美里中学校の小牛田校舎と南郷校舎という形でできないのかなと話をしました。しかし、県の教育委員会等がそのようなものを認めるかという問題がありますが、そういう形でも良いのではないかと考えています。

《女性》

私が中学校の時に、旧田尻町ですが、中学校に入った時に田尻中学校で、田尻と沼部と大貫がありますが、その教場という呼び方、分校ではなくて教場という形での入学でした。1、2年生をそこで過ごして、校長先生はさっき話があったように校長先生は1人です。分校だけれどもあまり交流がない、しかし、中体連の県大会の壮行式なんかは同じ中学校だからということで各校を回って行われました。行事はそれぞれの学校で行われました。そして3年生の時に実質合併をして1校になりました。3年生の時に今の田尻中学校ができて1回目の卒業生です。その前は二クラスだったのですが、合併した時に七クラス、ただ30人とかそんな少ない人数ではなくて40人くらいはいたと思います。それで統合した学校で過ごしました。小さいところは小さいなりに良かったです。統合も統合で良かったです。1年間だけでしたがいろいろな人と部活動とか生徒会とかで知り合えました。今でもやはり、3年生の時の同級生、先生とも面識ありますし、実際はよかったのかなと思っています。部活動もやはり小さくてできなかったのが統合したらできたのも経験しています。あの時に私が

経験した状態が今のこうした感じになって、聞いていました。だから、実際、南郷に関しては何も問題なくこのままでぜんぜんかまわない状況ですが、小牛田は中学校がどちらも古くて小学校だけばんばん、中卒だってあんな強引に作りましたよね。少人数で練牛と変わらないのに、中卒だけ新しくてなんで練牛だけつぶされたということで大騒ぎでした。私はその時父兄だったのですが。そうして考えもなしにやってきたことが10何年しかたっていないのに合併しようというのには私はだいぶ不満があります。砂山小学校もなくなって、こちらだけつぶされて、小牛田だけ新しくなるというのは。伊場野小学校の例もあります、わずかの人数しかいないのに新しくしたのを例にとって中卒が新しくなりましたが、こうしていつまでも練牛だけがつぶされたという頭ですから、だからとても難しい問題だと思います。中学校については人数的なことから仕方がないかなとは思いますが。

《男性》

これを全体で考えれば、今後生徒数も減少するし、学校の施設も老朽化する、そして一番大切なことは生徒が果たして小規模校の中で、先生も非常にタイトで難しい中で、生徒を本当に伸ばせるか伸ばせないかというのが一番の問題で、それが本当にこういうことを進めていくことで先ほど教育長が言われたような先生の質も良くなる、それによって生徒の質というか学力も伸びる、部活動の方もいろいろなものが、今後いろいろなものがなくなっちゃいけないということもないでしょうし、いろいろなことがあると思いますが、一番はこうしたことを進めて生徒の質を向上できるのか、できるのであれば間違いなくこの形で進めるべきであろうと私は思います。現段階の学力とこういうことをすることによってこうするというものが1つあれば、確かに、父兄の皆さんが心配していると思います。学校は大きくなったけれどもなかなか学力とかいろいろな面で伸びていかなかったというのではどうにもならない。やっぱりはっきりと、こういう目標でこうですよ、この時にはこういうところまでというのをきちんきちんとしていれば、やって良かったなど、さっき言ったようになるのではないかと思います。本当に生徒が少ない、お金もその通りだと、やはりもしかしたら先生の質のそこところが一番の問題になるのではないかと、小さい学校でいると音楽の先生と英語の先生が一緒だったりではなかなかならないのじゃないか、そういうことを考えれば進めていくべきなのかなと私は思っています。

《教育長（佐々木）》

ありがとうございます。良い意味での競い合いというのか、切磋琢磨、これは小学校でも言えますが、一学年一学級だと中学校の場合、3年間同じクラスです。それでだめではないのですが、いわゆる良い意味での競い合い、そしてそこで切磋琢磨し学力向上に結び付くということを我々は期待しています。それから、一番懸念されるのは、例えば20人の学級と20人の学級が一緒になると40人になりますが、今の文部科学省の定数は40人ですから学級の人数がすごく増えて、担任一人できめ細かな指導はできるのか、あるいは生徒指導上の問題は大丈夫かと、その辺をよく心配されますが、そういったことなども考慮して美里ではいわゆる今のビジョンとしては30人未満学級を目指して、そういったデメリットの部

分を解消していきたいと考えています。

《課長補佐（早坂）》

はい、ほかにございませつか。

《男性》

今の話でちょっと疑問に思ったのですが、よくテレビとかで最近の運動会では順位はつけないとか、競い合わせないような教育方針になってきているというような（番組）をついこの前まで観ていたような気がします、美里町の教育方針は、競わせてお互いを伸ばしていく教育方針でやっていくのか、優劣をつけないでみんな仲良くやってみようという育て方をしようとしているのか、どっちですか。優劣をつけていくというのなら生徒の人数を多くして競わせて教育をすればという話はわかりますが、その教育方針が仲良くやってみようと言って人数を増やして競い合つてというのでは矛盾していますよね。

《教育長（佐々木）》

その教育活動にもよりますが、例えば運動会を見ますと、最近はなくなつてきているのですが徒競走をやめようと中学校では、小学校ではやっていますが。それで徒競走なぜダメなんですかと、親御さんたち、ある地域、美里だけの問題でなく、なぜ優劣、順番をつけるのだと、かわいそうじゃないかと、そういった見方ですね。ところが、やはり教育的な目、それから地域の方々には運動会と言えば徒競走のイメージは強いですね。それで話はずれるかもしれませんが、一生懸命走れば、勝つたから素晴らしい、負けたからダメというそういう教育ではなくて、自分にチャレンジする、一生懸命頑張ると、そういうねらいをきちんと定めてやれば、なんら子どもたちが運動会で負けたから明日学校に行きたくないとか、極端に言えばですが、そういったことはないと思います。ですから、さっき申し上げましたようにやはり、お互い励まし合いながら勉強も一緒にがんばつていこうねと、みんな一緒の目線も必要なときもありますが、例えば学習形態で習熟度学習というのがあります。基礎基本のコースと少し進んだコースと、子どもたちに希望をとつてどつちでやってみるか、親御さんの了解を得ながらですね、そうやって子どもたちが自分で基礎基本をやってみますと、そういうのは今の子どもたちは何も抵抗なくやつているようであります。もちろん、今度はこっちに行つて頑張りますとか、そういった学習形態なども可能になってきます。現在もやつているところもありますが、答えにならないかもしれませんが、美里ではどつちですかと言われましても、その内容によって、すべて優劣をつけるとかそのようなことはありません。

《女性》

それぞれの得意分野つてありますよね、子どもたちでも。音楽の得意な子は音楽を伸ばそうとしてがんばつていくし、あるいは絵が得意だとか、全部違いますよね。それぞれ好きなことをどんどん伸ばしていつて欲しいです。その中には運動の得意な子もいるわけですね。かけつこの得意な子もいます。そういう子たちは運動会が楽しみで活躍の場ですね。ですから、それぞれの得意な分野を伸ばしてあげるためには、徒競走だけ割愛するというのはとてもおかしいことだと思つていました。ゆつりのある人数で見つてもらうのとは別に、得意な分野

というものはそれぞれ伸ばしてもらわなくてはなりません。伸ばせる機会を与えなければならぬので、徒競走をなくした方が良いとかというのはそんな単純な考え方でなく進んで欲しいとずうっと思っていました。

《課長補佐（早坂）》

それでは再編の部分について質問、それから御意見いただけますでしょうか。

《男性》

学校の統廃合問題というのは総合的に判断してこういうことは出てきます。児童生徒数の問題であるとか、あるいは学校施設の耐久性の問題であるとか、一番は児童生徒数の減少ですよ。それでいろいろお話が出ているように、子どもたちの教育環境をいかに良くするかというのを考えると、少人数学級というのはメリットもありデメリットもあります。私もちょっと見聞きしていますが、少人数学級ですときめ細かな学習指導はできているようです。ですから、2つの小学校から1つの中学校に行く、あるいは3つの小学校から1つの中学校に行くとなると、小規模小学校の生徒は割合に成績はいいです、見ていると。ところが小学校時代に序列が決まってしまう、6年間で。人数が少ないものですから成績も運動能力も全部決まってしまう。絶対に運動会でその子を追い越すとか勝つとかの意識が出てきません。それが悲しいですね、小規模小学校では。そういったもろもろのことを考えて子どもたちの教育環境を考えると、統廃合というのは絶対に逃げて通れない問題です。それで学校がなくなって地域が疲弊するというのはかなり大きなデメリットです。ですから、学校をどこかに建てるものすごい駆け引きが出てきます。父兄もOBも含めて。なんで、俺の方から学校なくすのだ、絶対ここに建てる、とかいう話で喧々諤々してしばらくかかります、決まるまでは。ですから、私は、統廃合は避けては通れない問題ですから、早めに基本計画を出して、メリット、デメリットはこうですよと出して欲しい。それに向かって地域懇談会で詰めていただいた方が良いのではないかと私は思っています。どうしても避けては通れない時代的な問題ですから、どう転んでもやらなければならない問題だろうなと思っています。ですから、さっき言ったように、学校をどこに建てるかという問題についても相当吟味しなければならない、時間を置かなければならないという問題がありますので、建てる位置によっては、小島から通ってくる、あるいは青生の方から通ってくるにしても相当の時間と距離がありますので、そういったことも考えればですね、はたして1校でいいのか、2校にして分離してそれぞれ生徒を集める方がいいのか、そういう問題も考えていかなければ駄目だと思います。それらを早めに基本計画のようなものを作り出さなければいけないかと思っております。

《課長補佐（早坂）》

はい、ありがとうございました。ほかに質問、御意見ございませんでしょうか。

《男性》

さっきの競争心の問題ですが、私は今の父兄が悪いと思います。あまりにも学校が父兄の顔を伺いながらやっているのではないかと私は思います。いろいろな遊び等を見てもあま

りにも騒ぎすぎるのではないか、私たちの時代には親は放ったらかしですよ、子どもが学校に行けばそのまま、悪い事をすればお前が悪いのだと言って、先生に叱られても親がどうこうするという事はなかったですよ、今はそうじゃないですよ。ちょっと怪我してもクレームをつける、クレマーって言うんですかね、それが非常に多くなっています。あまりにも父兄の顔色を伺いながら学校教育をやるというのもいかなものかと私は思います。もう少し毅然とした態度で教育委員会なり教育者であって欲しいと思います。

《男性》

難しいのではないですか。

《男性》

私もそう思います。今、自分の子どもが小学校に居て。周りがそう思いますもの。私たちの親たちのしつけが悪かったのかなあって思うこともあります、逆に言うと。

《男性》

何かクレームつけることが、何かものすごく偉いんだという違った感覚があったのではないですかね、一時期。

《男性》

やはり、先生が自信ないんですよ、社会を知らないから。学校出てすぐに先生、先生と言われて、それなりの父兄に一言、二言、言われると、返す言葉がないのが今の教師の現状ではないですか。ですから、やはりそれなりに先生は毅然としていないと。クレームつける親がいっぱいいるようですが、ふざけるなって喧嘩して、あまりそういうのは教育とは関係のない話ですからね。私、ちょっと意見を言わせていただきますと、先ほどから出ていますようにメリット、デメリットっていうのが明確じゃない。ですから、それをはっきりとやるべきだと思います。これをどう感じたかと言いますと、私の感じたことと言いますと、統廃合有きで書いているのではないですかと、何も悪いことを言っているわけではありませんよ。でも、それで意見を出せと言われても、ちょっと辛いのではないですか。なんで小規模校で駄目なんですかと、なんで教師の数が少なくて駄目なんですかと、今お話しありましたようにね。塾タイプの学校ならば教師の数が少なくともうまく転がるのではないかなと、ある意味から言えばですね。ですから、いろいろな多面的な考え方が入っていないような気がします。統廃合を私は反対で言っているわけではありません。反対で言っているわけではありませんが、なんで駄目なんだろうという気がしますね。だから、もう一つその辺を、メリット、デメリットをもっと突っ込んで、多面的な見方から検討してもらうのが良いのではないかと、だけど時間的な制約がありますからね、当然に。それから学校施設の老朽化、老朽化は金のかかる話ですが、例えば小学校を活用するという話もありますよね、新しい中卒小学校なんか10何年ですよ。これを使うやり方はないのですかと、けっこう校舎面積も3千ヘーバーありますしね、これ使えるじゃないのと。我々、中学校に入った時に高等小学校の教室が残ってしまして、高等小学校の建屋を使ってクラス入れられた経験を持っています。先ほど、田尻、沼部のお話がありました、何かやり方がいろいろあるのではないかなと思

ます。練牛の方はぜひぶん経験的に練牛小学校が廃校になってかなり身に染みておわかりだと思えますけれども、やはり地域社会に与える影響というのは非常に大きいんですよね、だから100人も生徒がいれば残しても良いのではないかと思います。考えようによってはですよ。それは財政的にもたないっていうのであれば、いろいろやっても財政的にもたないというのならばいたさない方がいいのですが、100人もいれば残してもいいんじゃないかなという感じがしますね。

《男性》

何かルールがあるんじゃないですか、高校だと定員の7割以下を3年続くと廃校になるとか言われますけどね。

《教育長（佐々木）》

義務教育にはないです。

こういったことには時間がかかります。ですので、こうして意見を聴きながら。

《男性》

我々としても目先のことで単に反対をして感情的にそういう着地はやりたくない、やはり正当な理由と根拠に基づいてしかるべき姿はこうだというふうにもっていったというのが住民の本音なのです。

《男性》

素案の素案でいいですから出していただくと、それに向かって話ができるんですね。今言ったように統廃合を何年か後にやりたいという、ぼやあ〜としたものを出されても、何を質問したら良いのだろうというのがこういう会議になってしまうのではないかと思います。今回は仕方ないとしても、1回目で情報を伝えるということでしょうから、次からは多少は内容が変更になったとしても、こういう基本的な方向で進めたいということを示していただいた方が話としてしやすいのかなと思います。

《教育長（佐々木）》

今回は再編について、中学校を1つにという考え方はいかがなものかという、そこに論点を絞ったかたのですが、ぜひぶんお話をいただきましたが。その後に小学校という考え方があるのですが、確かにメリット、デメリットきちんと載せて説明をすべきだという御意見はいただいております。また、いろいろな選択肢が考えられます。先ほど言われたこともですね、今ある建物を利用して再編計画はできないのかと、また、それをここで話すと混乱しますので、そういった視点もございます。視点というか考え方ですね。

《課長補佐（早坂）》

はい、ほかに御意見、質問、御感想でもございませんでしょうか。

《男性》

参考までにお聞きしますが、将来的には地区から何人かずつを選んで詰めていくということはあるのですか。全体的なこういう会議だけですか。PTAの会長さん方に集まっていたとかですかね。

《教育長（佐々木）》

これから教育委員会で取組むのは先ほど次長が申し上げましたが、学校にお邪魔して、保護者の方々とのようなお話しをして、ある程度の方向が決まれば当然準備委員会なり、場所の問題等々難しい問題がたくさん出てくると思います。名前を何委員会にしたらよいかはわかりませんが、そうした組織は必要になるかと思えます。そして具体化にどんどん話が進んでいくと、今度は保護者の代表とか関係機関、関係者に集まっていただいて、涌谷の例を申し上げますと、制服はどうするのか、校歌はどうするのだ、とかの具体的な内容の検討委員会なども当然必要になってくると思います。今はその前の前の段階ですが、早めに方向付けを決めていければと願っているところです。

《男性》

やはり、結論出るまでに時間と年数はかかりますので、早め、早めにやっていかなければなりません。あまり、のんびりしてもまとまるものがまとまらなくなりますが。

《男性》

教育委員会の一部署だけではなくて、防災系統にも任務を担っていますので私はその辺のお話を聴きたいと思うので、そういった機会も是非与えていただければと思います。さっきの災害が発生した場合の避難場所としての建物の利用価値のことも含めてですね、是非お願いしたいと思えます。

《課長補佐（早坂）》

ほかに、ございませんか。

《教育委員（千葉）》

若い方が参加していただいています、なんか今日の会合はいやだったなって思われているか心配です。統合とは別な話で、私の個人的な話をさせていただきますが、うちには3人の子供がいます。長男の時代はやはり競争する、次男から下の方はみんなで仲良くしましょうという時代でした。子どもたち3人を見ていると、やはり競争する時代の方が子どもたちはがんばるといふか、仲良しの子どもの方はとにかく仲良くやればいいでしょって、競争することを忘れてしまっている、同じ兄弟でもそういうふうに感じます。だからどっちが良いというわけではないのですが、やはり美里町の教育方針はどうですかというのは難しいことですが、まずはお父さんとお母さん方の教育方針もちょっと考えていただければと思います。私も、しっかりした子どもになって欲しいとか、優しい子どもになって欲しいとか、いろいろ願いはあります。しっかりしているか、優しいかという疑問がありますが、美里町がこうだったからうちの子供はこうなったという感じは持っていません。だから、美里町の教育委員会がそうだったから次の会議に行きたくないと思わないでください。今日は良いお話を沢山いただいたので、次の機会にも参加していただいているいろいろな意見をお聞かせしていただきたいと思えます

《教育次長（須田）》

先ほどもお話しをしましたが、9月くらいを予定としまして、南郷小学校、南郷中学校、そ

れから幼稚園の保護者の皆さんを対象に、それぞれ別々にこうした意見交換会を開催させていただきたいと思います。また、場合によってはもっと小さい単位で、例えば練牛小学校区の父兄の方に集まっていただくとか、そのようにも進めていきたいと考えていますのでそのようになりましたならよろしくをお願いします。

《課長補佐（早坂）》

よろしいでしょうか、皆様の方から御意見等がなければ閉じさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。次長の須田からもお話ししましたように、今後皆様の意見を聴く会を何回でも持ってより良い学校に再編、学校の在り方についてまとめてまいりたいと思いますので、今後とも御意見をいただきたいと思います。閉会に当たりまして、佐々木教育長から閉会の挨拶を申し上げます。

《教育長（佐々木）》

一言、御礼の挨拶を申し上げます。今日は土曜日の夜、大変貴重な時間、学校再編についていろいろと御意見をいただくことになりました。今日は保護者の立場で御意見をいただきました。それから、区長さんはじめ地域の方々からも御意見をいただきました。今日で8会場、全部終わったわけですが、共通点もいっぱいありました。更に、やはりこの地域ではこういう考え方、意見があるのかなあという部分もございました。今回の今までの説明会でいただいたいろいろな意見を教育委員会で早めにまとめまして、ホームページなり何らかの方法で皆さんにお知らせをし、更に保護者の皆様を対象にした説明会等々をこれから繰り返し、あまり時間をかけずに、ただあせらずに、聴くところはしっかりと聴いて進めていきたいと思っております。今日は本当に大変ありがとうございました。